

- 問1 16世紀半ば、種子島にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に新しい兵器が伝えられた出来事について、その後の歴史に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。 | 2. この兵器は元軍が日本に襲来した際に初めて伝えられたもので、鎌倉幕府が滅亡する直接の原因となった。 | 3. この兵器の伝来により、騎馬武者が名乗りを上げて一対一で戦う伝統的な戦術がより一層重視されるようになった。 | 4. この兵器は朱印船貿易が最も盛んだった江戸時代初期に初めて日本にもたらされ、幕府の軍勢力を支えた。 |
|---|---|---|---|
- 問2 戦国大名が領国内の武士や民衆を統制するために定めた「分国法（分国章程）」に関連する記述として最も適切なものはどれですか。なお、法の中には家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」などの規定が含まれているものとします。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。 | 2. 全国の戦国大名が共通のルールを持つことで、大名間の和平を促進するために制定された。 | 3. 朝廷から与えられた公家法をそのまま適用し、京都の文化を地方に広めるために制定された。 | 4. 農民が団結して一揆を起こすことを推奨し、幕府の権威を完全に否定するために制定された。 |
|--|--|---|---|
- 問3 戦国大名は軍事力だけでなく、経済力を高めるために石見銀山などの鉱山開発を進め、石州銀と呼ばれる銀貨を流通させるなど、領国の経営に力を入れました。このような大名たちが、領国内の家臣の統制や紛争解決、土地の支配を目的として制定した「分国法」の性格について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--------------------------------------|--|--|
| 1. 幕府が全国の武士に対して一律に守らせるために制定した、全国共通の法律である。 | 2. 各戦国大名が、自分の領国の実情に合わせて独自に制定した法律である。 | 3. 村々が自衛のために組織した「惣」において、農民たちが話し合って決めた決まりである。 | 4. 朝廷が定めた律令を補い、貴族の土地所有権を保護するために制定された法律である。 |
|---|--------------------------------------|--|--|
- 問4 戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。 (2023年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|------|-------|
| 1. 平戸 | 2. 長崎 | 3. 堺 | 4. 博多 |
|-------|-------|------|-------|
- 問5 戦国大名の武田晴信（信玄）が定めた「甲州法度之次第」のように、大名が独自に法を定めた背景を説明した次の文の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。「戦国大名は、幕府の法が及ばなくなった自分の（ ）において、家臣の勝手な婚姻を制限したり、領民を管理したりすることで支配を強化しようとした。」 (2023年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|------|-------|
| 1. 荘園 | 2. 幕領 | 3. 藩 | 4. 領国 |
|-------|-------|------|-------|
- 問6 室町時代後期から戦国時代にかけて、幕府の権威が衰える中で、各地の戦国大名が自分の領国内を統治し、家臣団を統制するために独自に制定した法律の総称を何といいますか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|-----------|--------|----------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 公事方御定書 | 3. 分国法 | 4. 御成敗式目 |
|----------|-----------|--------|----------|
- 問7 16世紀後半に甲斐や信濃の一部で使われていた、度量衡に関する独自の基準である「甲州ます」の説明として、最も適切な記述を選びなさい。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた | 2. 将軍の足利義昭が京都の商人に命じて作らせ、全国の有力大名に配布した標準的な枡である | 3. 江戸幕府が貨幣制度の安定を目指して制定した、全国で唯一使用が認められた公認の計量器である | 4. 南蛮貿易を通じてキリスト教の宣教師たちが持ち込んだ、西洋式の容積単位に基づいた枡である |
|---|--|---|--|
- 問8 室町時代後半から戦国時代にかけて見られた、身分や立場が下の者が、実力によって上の者に打ち勝ち、その地位を奪う社会的な風潮を何といいますか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|----------|---------|---------|
| 1. 下剋上 | 2. 御成敗式目 | 3. 一向一揆 | 4. 尊王攘夷 |
|--------|----------|---------|---------|
- 問9 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。 (2022年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|--------|--------|
| 1. 寄合 | 2. 下剋上 | 3. 徳政令 | 4. 惣領制 |
|-------|--------|--------|--------|
- 問10 日本列島の地理的区分において、中国地方の日本海側に位置する島根県にあり、戦国時代に大名の保護を受けた商人たちによって大規模な開発が進められた銀山はどれですか。 (2023年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 足尾銅山 | 2. 生野銀山 | 3. 佐渡金山 | 4. 石見銀山 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問11 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。 (2018年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------|-------|-------------|-------------|
| 1. ローマ教皇の命令 | 2. 聖書 | 3. 教会が定めた儀式 | 4. 免罪符（贖宥状） |
|-------------|-------|-------------|-------------|
- 問12 鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。 | 2. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。 | 3. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。 | 4. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。 |
|---|--|---|---|
- 問13 1543年、九州の南側に位置する種子島にポルトガル人が漂着した際、日本に初めて伝えられた武器について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. この武器の伝来と同時にフランシスコ・ザビエルによってキリスト教が日本に広められた。 | 2. この武器は弓矢と呼ばれ、従来の騎馬武者による一騎打ちをより重視させるようになった。 | 3. この武器は高度な技術が必要だったため国内での製造ができず、終始輸入に頼っていた。 | 4. この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化した。 |
|--|--|---|---|
- 問14 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国内を統治し、家臣や民衆を統制するために独自に制定した法律を何というか。 (2021年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|--------|----------|
| 1. 公事方御定書 | 2. 御成敗式目 | 3. 分国法 | 4. 武家諸法度 |
|-----------|----------|--------|----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 1543年に伝えられたこの兵器は、集団戦法への転換を促し、防御力の高い城郭の構造などにも大きな影響を与えた。	1543年（16世紀）に種子島へ鉄砲が伝来したことで、それまでの騎馬戦から足軽による集団戦法へと戦術が大きく変化しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げた堅固な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面で社会に劇的な変革をもたらしました。
問2	答え 1 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。	戦国大名は、実力至上主義による下剋上が自分の身に及ぶことを防ぐ必要がありました。そのため、家臣間の私闘を禁じ、大名の裁決に従わせることで領国支配を安定させようと分国法を制定しました。一揆はむしろ大名が警戒し、鎮圧すべき対象でした。
問3	答え 2 各戦国大名が、自分の領国の実情に合わせて独自に制定した法律である。	戦国大名は、自らの力で領国を守り、富国強兵を図る必要がありました。そのため、幕府が制定した法に従うのではなく、領国内の家臣の団結を強めたり、経済活動を管理したりするために、それぞれの領国の状況に応じた独自のルールを定めました。これが分国法であり、今川氏の「今川仮名目録」や武田氏の「甲州法度之次第」などが有名です。
問4	答え 3 堺	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。
問5	答え 4 領国	戦国大名が直接支配を及ぼした範囲は「領国」と呼ばれます。江戸時代の「藩」や、中世の貴族・寺社の土地である「荘園」とは区別されます。分国法は、この領国内でのルールを明確にすることで、大名の権威を確立し、富国強兵を進めるための重要な手段でした。
問6	答え 3 分国法	室町幕府の力が弱まり、実力で領地を支配する下剋上の世の中になると、戦国大名は幕府の法に頼らずに自らの領国を治める必要が生じました。そこで、領地内の秩序維持や家臣同士の私的な争いを禁じるために独自の法を定めました。武田氏の「甲州法度之次第」や今川氏の「今川仮名目録」などがその代表例です。
問7	答え 1 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた	甲州ますは、戦国時代に武田氏の領国などで使用された枡です。当時、中央では「京枡」が使われていましたが、地方の有力大名は自分の領内の経済や税（年貢）の徴収を管理するために、独自の度量衡を定めていました。甲州ますの容量が京の基準と異なっていたことは、当時の地域社会が独自の経済圏を持っていたことを象徴しています。足利義昭などの将軍が全国の基準を統一した事実はなく、むしろこうした地域ごとの差異が戦国時代の特徴の一つと言えます。
問8	答え 1 下剋上	応仁の乱以降、幕府や守護の権威が衰えたことで、家柄よりも軍事力や政治力といった実力が重視されるようになりました。家臣が主君を倒して実権を握るといったこの動きは、戦国時代の社会を象徴する現象です。選択肢にある「尊王攘夷」は幕末の思想、「一向一揆」は浄土真宗の門徒らによる抵抗運動を指します。
問9	答え 2 下剋上	室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。
問10	答え 4 石見銀山	石見銀山は、16世紀前半に博多の商人である神屋寿禰らによって本格的に開発されました。戦国大名の尼子氏や毛利氏がこの地の支配権をめぐって激しく争い、江戸時代には幕府の直轄地（天領）となりました。鳥根県の大田市に位置し、世界文化遺産にも登録されています。
問11	答え 2 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問12	答え 2 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。
問13	答え 4 この武器は鉄砲と呼ばれ、その後の戦国時代の戦い方を集団戦へと大きく変化させた。	1543年に種子島へ伝来した鉄砲は、それまでの武士個人による一騎打ちから、足軽の集団が鉄砲を一齐に射撃する戦術へと戦い方を一変させました。鉄砲はその後、堺（大阪府）や国友（滋賀県）などで国産化が進み、全国の戦国大名へと普及しました。なお、キリスト教の伝来は1549年であり、鉄砲の伝来とは時期や経緯が異なります。
問14	答え 3 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は実力で領土を治める必要がありました。そこで、領国支配を安定させるために独自の法規範である分国法を制定しました。これは、大名の権力を強化し、家臣同士の私的な争いを禁じる役割を果たしました。